

つぼみだより

平成22年 2月号
NO/11
中高生の部

寒かった日々も少しずつ暖かな陽射しと共に春の訪れを感じられるようになってきました。春を迎えるつぼみは例年の如く慌ただしい・・・こんなに慌ただしいのはつぼみの風物詩なのかとも思いながら、なんだかわくわくしている職員。なぜならつぼみの成長の裏には必ず子どもの成長があるからなのです。頑張ってきた子ども達の姿を確認し今後の目標を立てる時期。今年はこんな姿になって欲しいと願いを込めて個別支援計画を立てました。

そして、子ども達もなんだかわくわく・・・頑張ってきた1年が終わりを迎える時期 色々な成長の足跡を残しましたね。結果だけではなく、ここまで頑張ったという姿を十分評価してもらいたいと願っています。



今月のすがた

あと一ヶ月で卒業・進級・・・寒い2月からもうすぐ暖かい春に向かっていきますね。そんな2月、つぼみの中高生は日課を大きく変更しました。2月の活動予定表をお渡しした時、「これって何をやるだろう？」と思ったお母さんもみえたのではないのでしょうか？来所してくる子どもたちも活動のイメージが沸かない様子で？の表情が見えました。

日課を変更した理由は2つ。まず一つ目に、確実な力を付けていく。漬物の調理の工程では同じ幅を見て切る・重さを量り調整する、包丁など道具を使う時に視線を手元に注視して手首の角度を合わせる等の療育的な意味を持って取り組んできました。それらを大体できるだろう 確実にできる力にするために、まず原点に戻り基本的な療育で一步一步進み力を付けていきたいと考えました。次に2つ目は、集中力を身に付けること。

TGWの実習では休憩・作業のメリハリをつけ、子ども達の作業に対する集中力の継続から仕事に向ける真剣さを感じました。今の中高生に必要な力、今後企業実習を行い就労していくために身に付けていたい力をスタッフでもう一度見直し、一ヶ月取り組んできました。



取り組みでは、子どもたちにとっては今までの漬物調理でも聞いたことのある言葉「それ見本よりも長いよ。」「150グラムより多いで減らすよ」「まっすぐ切るよ」・・・それは私たちが日常で当たり前にする言葉。それを一つ一つの動作や視線の送り方・手の動かし方などを噛み砕きながら、どうしたら・・・何を使ったら 子どもたちの理解につながるのか？をそれぞれの子どもに合わせて考えながら、取り組んでいます。子どもが作業のイメージを持ちやすいように見本を見せるスタッフも改めて考えて身体を動かすと？となり、ぎこちなくなったり(笑)しかし子どもたちはどんな初めてのことに、前向きに取り組もうとしています。もちろん苦手なことがあったり、難しいことがあるのは当たり前です。まだまだ取り組み始めて一ヶ月。一ヶ月ですが、「今日は～やね。こうやって前やったね。」先週からのつながりに気づき、「おお～！」と感覚をつかみかけた表情に、

子どもたちの意欲を感じます。まずは子どもたち自身が自分と向き合い取り組む中で自助力を身につけてほしいと思っています。

またそれぞれの物事の理解や感覚を養うとともに、特に意識付けをしているのは“姿勢”。1月号のつぼみ便りにもありましたが、今の中高生はどんな時も子どもたち自身が意識して“姿勢”を合言葉になってきました。自分では背筋も伸ばし、“良い姿勢”と思っていても鏡で自分の座る姿勢を確認すると「あれ??」という表情。また周囲の姿勢と自分とを見比べて少し前に座ってお腹に力を入れて・・・一分間その姿勢を保持する！テスト形式で行ってみることもありました。まだまだ自分には甘く人には厳しく・・・ですが、始まり・終わりの会では一瞬みんなが静まり互いに姿勢を確認するという時間が持てるようになってきました。以前、親ミーティングでの会長の姿勢についての話を聞いて、ノートに姿勢のことについて書いて下さったお母さんもみえました。しかし、つぼみでの子どもたちの姿勢への意識は、中高生の部が開所した4月からは確実に変わってきています。来所してからや帰る時の用意も立って、早くできるようになりました。日々の積み重ねですよね。どんなことも子どもたちは必ず応えてくれるからこそ、個々に合わせた、集団に合わせた活動の中で力となるような支援・指導をこれからもしていきたいと思います。



お知らせ

個別支援計画の確認と懇談会を3月末からの春休みに予定しています。後日詳細を配布いたしますのでご確認ください。忙しい時期とはなりますが、お時間の都合をつけて頂くようお願い致します。

日にち 3月29日(月) 30日(火) 31日(水) 4月1日(木) 2日(金)
時間 15時15分～ 一人15分程度

kのひとこと

kのひとことで、職員の紹介をはじめたのは、忘れもしないkがヘルニアで入院していたあの時からである。そしてまた、今もkは病室のベットの上でkのひとことを書いている。いったいいつになったら健康な体になるのか?と自問自答しながら、自暴自棄になるkはあることを思い出す。そう、入院こそが、光陽福祉会発展の時、一回目の入院で、今の建物へ移り、二回目の入院で社団法人光陽福祉会が誕生。そして、TGW株式会社との業務提携。移動支援事業。

kの入院と共に発展する「つぼみ」今回は、そんな入院中に思いついた移動支援事業で、奮闘する移動支援の母であり、孫悟空いや、臼井先生の紹介だ。真面目でスポーツ大好きな臼井先生はヒョウ柄も似合う。あれは、確かつぼみでの臼井先生歓迎会の日、kの斜め前をヒョウが座っていた。そんな、お茶目な一面のある臼井先生は、スパルタ的指導に定評がある。もちろん愛情たっぷりのだ。福祉従事者は楽をしようと思えば簡単に楽が出来る。子どもと向き合うとき「よしよしもういいよ」って言えば、楽でしょ。もちろん、関わりの技術として、そういう技法を使う場合がある。しかし、臼井先生に妥協や諦めはない。「できるようにしたい。」そう思ったら猪突猛進一直線に進んでいく。それが、臼井先生魅力である。

光陽福祉会にはこんな素晴らしい先生がたくさんいる。だからこそ、このメンバーで新たな事業をスタートさせたい。SPM(スポーツ療法マッサージ)おそらくこの事業は全ての自立の懇願となる。保護者説明会近日開演。